



## 平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月5日

上場会社名 ソーダニッカ株式会社  
 コード番号 8158 URL <http://www.sodanikka.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長洲 崇彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼常務執行役員 (氏名) 毛利 正人

TEL 03-3245-1803

四半期報告書提出予定日 平成30年11月13日

配当支払開始予定日

平成30年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	50,351	7.1	653	21.9	790	20.3	527	25.3
30年3月期第2四半期	47,007	2.3	536	15.5	657	19.1	421	11.1

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 1,076百万円 (21.9%) 30年3月期第2四半期 1,377百万円 (353.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	21.17	
30年3月期第2四半期	16.90	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	65,426	24,980	38.2
30年3月期	62,411	24,078	38.6

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 24,980百万円 30年3月期 24,078百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		7.00		7.00	14.00
31年3月期		7.00			
31年3月期(予想)				7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	7.9	1,380	10.0	1,610	7.3	1,070	9.7	42.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	25,168,000 株	30年3月期	25,168,000 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	226,176 株	30年3月期	226,175 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	24,941,825 株	30年3月期2Q	24,941,882 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国の通商政策や異常気象の影響を受け、生産や輸出が弱含みで推移しましたが、個人消費の持ち直しや企業収益の改善を背景に総じて緩やかな回復基調となりました。

当社グループに関係の深い化学工業界につきましては、生産や輸出が弱含みで推移していることに加え、原材料価格や運送費等の上昇懸念もあり、先行き不透明な状況となっております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、中期経営計画「Go forward STAGE 1」の最終年度に当たる事業年度として、事業領域・業種ごとにニーズを汲んだ提案営業を加速させるとともに、これまでと同様に中国・ASEAN 地域における海外取引の拡大、フィルム包材ビジネス及び環境関連ビジネスの強化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高 503 億 5 千 1 百万円（前年同期比 7.1%増）、営業利益 6 億 5 千 3 百万円（同 21.9%増）、経常利益 7 億 9 千万円（同 20.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 5 億 2 千 7 百万円（同 25.3%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

## 【化学品事業】

無機薬品につきましては、主力商品のか性ソーダは市況の回復及び取扱数量の増加により増収となりました。その他の商品ではアルミニウム化合物は天候の影響により、また鉄化合物は電子業界向け部材の生産が好調で、それぞれ取扱数量が伸長し増収となりましたが、重炭酸ソーダ及び水酸化マグネシウムは取扱数量の減少により減収となりました。

有機薬品につきましては、製紙用ラテックス及びその他の石油化学製品は市況の回復により増収となりましたが、メタノールは取扱数量の減少により減収となりました。また、資源・リサイクル処理剤ではキレート剤が市場の競争激化により減収となりました。

この結果、化学品事業といたしましては、売上高は前年同期に比べ 10.0%増の 374 億 3 千万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ 17.2%増の 12 億 5 千 3 百万円となりました。

## 【機能材事業】

包装材料につきましては、複合フィルムは健康食品向けの新規開拓が進んだことや猛暑に伴い飲料の販売が好調であったこと、ナイロンフィルムは中国向け輸出が好調だったことから増収となりましたが、ポリプロピレンフィルムは輸出が振るわず減収となりました。

合成樹脂につきましては、ポリエチレン樹脂が取扱数量の増加により増収となりましたが、タンク類は案件の減少により減収となりました。

機器類につきましては、包装関連機器及び機械器具設置工事が案件の増加により増収となりましたが、電気関連機器は大型案件の減少により減収となりました。

この結果、機能材事業といたしましては、売上高は前年同期に比べ 1.0%減の 117 億 2 千 6 百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ 8.0%減の 2 億 9 千 7 百万円となりました。

## 【その他事業】

その他事業につきましては、売上高は前年同期に比べ 5.0%増の 11 億 9 千 3 百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ 69.8%増の 4 千 3 百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## 【財政状態の分析】

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ 30 億 1 千 4 百万円増加いたしました。

増減の主なものは資産の部では、現金及び預金が 16 億 5 千 5 百万円、受取手形及び売掛金が 5 億 8 千 9 百万円、投資有価証券が 8 億 2 千 6 百万円それぞれ増加いたしました。負債の部では、支払手形及び買掛金が 14 億 1 千 5 百万円、「その他」に含まれております前受金が 6 億 3 千 1 百万円増加いたしました。純資産の部では、その他有価証券評価差額金が 5 億 6 千 6 百万円増加いたしました。

【キャッシュ・フローの状況】

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ16億2千2百万円増加し91億7千5百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは20億2百万円の増加となりました。これは税金等調整前四半期純利益が7億9千万円でありましたが、売上債権の増加が6億1千4百万円、仕入債務の増加が14億3千2百万円、棚卸資産の減少が2億9千3百万円となったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは1億8千3百万円の減少となりました。これは主に、定期預金の預入による支出3千3百万円、有形固定資産の取得による支出2千8百万円、無形固定資産の取得による支出1億3百万円、投資有価証券の取得による支出1千万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは1億8千2百万円の減少となりました。これは主に、配当金の支払額1億7千4百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の日本経済の見通しにつきましては、個人消費や輸出を中心に緩やかに回復するものと期待されます。その一方で、米中貿易摩擦による影響や地政学的リスク、人手不足に伴う人件費の高騰等、景気を下押しするリスク要因もあり、先行き不透明な状態が継続するものと思われま

す。このような事業環境のもと、当社グループは引き続き化学品と機能材の二事業を基軸とする経営を推進するとともに、財務体質の強化と経営の効率化を図り、収益力の向上に向けて邁進する所存でございます。

平成31年3月期の通期業績予想につきましては、平成30年5月9日付公表の数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,660	9,316
受取手形及び売掛金	36,740	37,329
商品及び製品	2,751	2,454
その他	265	420
貸倒引当金	△39	△37
流動資産合計	47,378	49,483
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	465	453
車両運搬具（純額）	9	10
土地	1,087	1,087
その他（純額）	122	134
有形固定資産合計	1,684	1,685
無形固定資産		
	99	184
投資その他の資産		
投資有価証券	12,502	13,328
その他	779	776
貸倒引当金	△33	△32
投資その他の資産合計	13,248	14,073
固定資産合計	15,033	15,942
資産合計	62,411	65,426

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	27,881	29,297
短期借入金	5,041	5,040
未払法人税等	370	290
賞与引当金	253	264
役員賞与引当金	30	17
その他	1,280	1,796
流動負債合計	34,857	36,706
固定負債		
繰延税金負債	1,745	1,998
再評価に係る繰延税金負債	194	194
退職給付に係る負債	1,004	1,022
長期預り保証金	521	516
その他	10	7
固定負債合計	3,475	3,739
負債合計	38,333	40,446
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,762	3,762
資本剰余金	3,130	3,130
利益剰余金	11,838	12,191
自己株式	△64	△64
株主資本合計	18,666	19,020
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,242	5,808
繰延ヘッジ損益	△4	6
土地再評価差額金	148	148
為替換算調整勘定	71	39
退職給付に係る調整累計額	△46	△43
その他の包括利益累計額合計	5,411	5,960
純資産合計	24,078	24,980
負債純資産合計	62,411	65,426

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	47,007	50,351
売上原価	43,788	46,932
売上総利益	3,218	3,418
販売費及び一般管理費	2,681	2,764
営業利益	536	653
営業外収益		
受取利息及び配当金	125	140
その他	18	20
営業外収益合計	144	160
営業外費用		
支払利息	18	18
売上割引	2	2
その他	2	2
営業外費用合計	23	23
経常利益	657	790
税金等調整前四半期純利益	657	790
法人税、住民税及び事業税	240	266
法人税等調整額	△3	△3
法人税等合計	236	262
四半期純利益	421	527
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	421	527

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	421	527
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	963	566
繰延ヘッジ損益	2	10
為替換算調整勘定	△14	△31
退職給付に係る調整額	4	2
その他の包括利益合計	955	548
四半期包括利益	1,377	1,076
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,377	1,076
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	657	790
減価償却費	58	48
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2	△2
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	25	22
受取利息及び受取配当金	△125	△140
支払利息	18	18
有形固定資産除却損	0	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,570	△614
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,276	293
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,661	1,432
その他	△304	375
小計	1,145	2,224
利息及び配当金の受取額	125	139
利息の支払額	△21	△18
法人税等の支払額	△191	△343
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,057	2,002
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△3	△33
有形固定資産の取得による支出	△26	△28
無形固定資産の取得による支出	△2	△103
投資有価証券の取得による支出	△9	△10
敷金及び保証金の差入による支出	△10	△6
敷金及び保証金の回収による収入	2	23
その他	3	△24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45	△183
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△25	△1
配当金の支払額	△174	△174
その他	△5	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△204	△182
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△14
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	797	1,622
現金及び現金同等物の期首残高	7,649	7,553
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,447	9,175

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	化学品 事業	機能材 事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	34,018	11,850	1,137	47,007	—	47,007
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1,043	1,043	△ 1,043	—
計	34,018	11,850	2,180	48,050	△ 1,043	47,007
セグメント利益	1,069	322	25	1,418	△ 881	536

(注) 1. セグメント利益の調整額△881百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	化学品 事業	機能材 事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	37,430	11,726	1,193	50,351	—	50,351
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1,212	1,212	△ 1,212	—
計	37,430	11,726	2,406	51,564	△ 1,212	50,351
セグメント利益	1,253	297	43	1,593	△ 939	653

(注) 1. セグメント利益の調整額△939百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。